

## 猪鼻城跡の発掘調査結果について

### 1. 文化財の概要

#### (1) 名称

猪鼻城跡（含七天王塚）（昭和 35 年 3 月 9 日 千市史第 1 号）

#### (2) 指定年月日（指定書番号）

昭和 35 年 3 月 31 日 （千市史第 1 号）

#### (3) 概要

猪鼻城跡は、千葉常重が大治元年（1126）に大椎城より猪鼻山に移り築城したとの説もあるものの、これまでの発掘調査において鎌倉時代の千葉氏に関わる遺構は確認されていない。過去の調査においては、主に 13～15 世紀の遺構や遺物が検出されており、墓域や建物跡等が確認されている。堀や土塁の巡る城郭としては戦国時代のものと考えられ、城郭の主要部と考えられる部分は、亥鼻公園として千葉市が整備・公開している。また、城郭の範囲内には「七天王塚」とよばれ、北斗七星あるいは牛頭天王を祀る、将門の影武者を葬るなど多様な伝承を有する塚が 7 基所在している。

### 2. 調査の経緯

市道中央星久喜町線の中央区亥鼻 1 丁目周辺（千葉大学医学部南側の道路）は道路幅が狭いため、渋滞解消と安全対策を目的として道路拡幅工事が計画された。史跡・埋蔵文化財についても協議を行い、平成 29 年に七天王塚 3 号塚・7 号塚の現況測量、3 号塚については範囲確認のための部分的な発掘調査を行なった。これらの調査結果を基に、平成 30 年 3 月に文化財保護審議会を開催し、七天王塚 3 号塚の指定範囲について了承を得た。

平成 30 年 5 月、文化財保護法 94 条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が提出され、同年 8 月に試掘調査を実施した。一部で遺構が確認されたため、必要な範囲について事前の発掘調査を行なうこととなった。

### 3. 確認調査の結果（資料 2-2）

令和 2 年 3 月、本調査の範囲決定、経費及び期間算定のための確認調査を実施した結果、土壌 6 基、溝状遺構 4 条が確認されたため、遺構を確認した千葉大学の正門より南東側の 3 地区 552 m<sup>2</sup>を本調査範囲とした。

### 4. 発掘調査と成果（資料 2-3）

本調査は、道路建設課と千葉大学建築環境課と協議し、令和 2 年度の道路拡幅工事の予定に合わせて A・B・C 地区を 2 期に分けて実施した。

調査の結果、縄文時代の土坑 1 基、奈良・平安時代溝状遺構 1 条、中・近世テラス状遺構 2 箇所、土坑 9 基、溝状遺構 4 条を検出した。この他に近代頃に稼働していた旧東金街道・旧大網街道と思われる道路面と側溝を調査区の道路側において確認している。

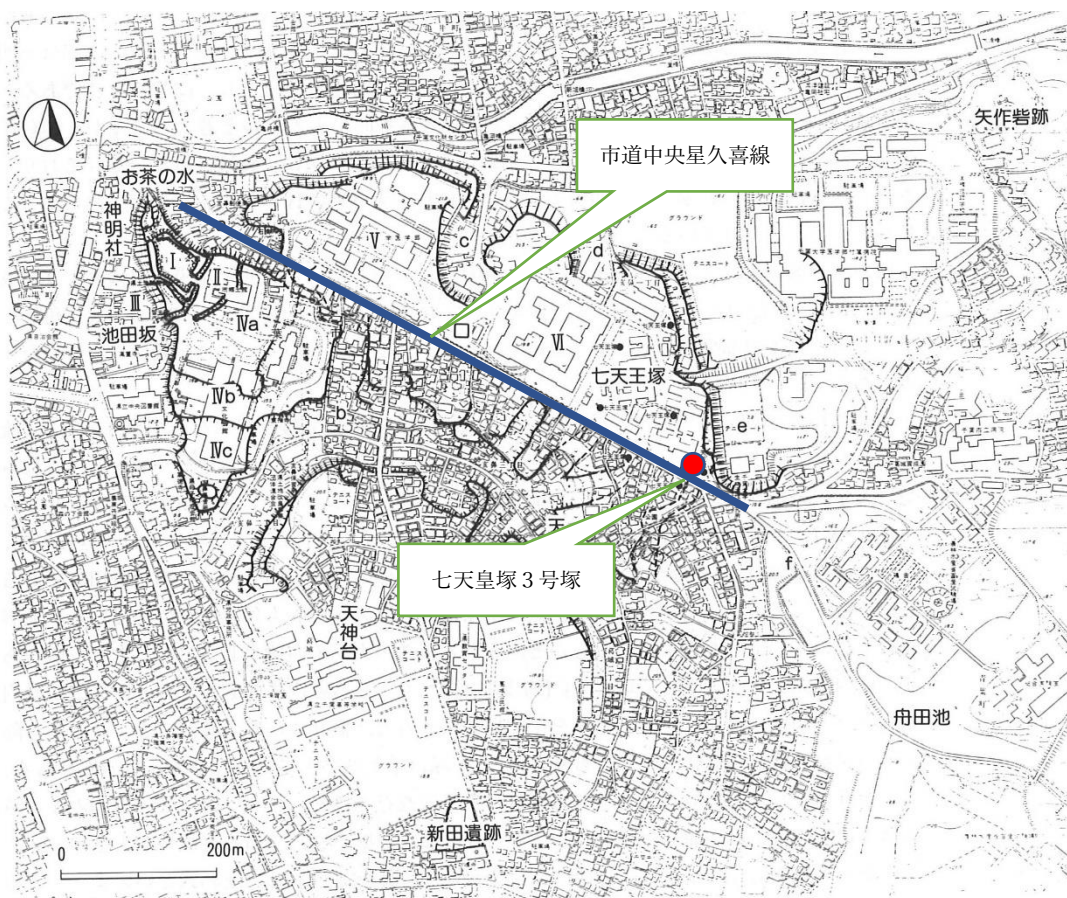
縄文時代の土坑 1 基は A 地区で検出した。奈良・平安時代の溝状遺構 1 条は、C 地区で検出しており、平成 14 年度に千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会によって、弥生時代～古墳時代の住居跡・古墳等を調査した地区の南近接地にあたる。また、猪鼻城跡に関する中世遺構としては、B 地区中央で検出した 2 箇所の特ラス状遺構及びそれと切り合い関係にある土坑 3 基が考えられる。B 地区は、南側から入り込む谷津の先端付近にあたり、やや深いレベルで遺構を確認している。テラス状遺構は、谷津側に一段下がり平坦面を形成し南側の調査区外に広がっている。この他の土坑・溝状遺構については、中世から近世に至る時期の遺構と考えられる。

報告書は、来年度以降の整理作業実施後に刊行する予定である。

## 5. 七天皇塚 3 号塚へのフェンス設置について

七天皇塚 3 号塚については、平成 29 年 8 月に詳細測量調査、平成 29 年 12 月に範囲確認調査が実施された。調査の成果に基づき、塚の頂点から半径 6m の範囲を基本とし、大きく攪乱を受けている塚の南側については、頂点から 4.6m で道路に沿うラインを史跡範囲として確定した。(平成 29 年度年第 2 回千葉市文化財保護審議課会にて議決)

この度、市道中央星久喜線の工事に伴い、七天皇塚 3 号塚南側の史跡範囲と歩道の境界地点に(史跡範囲の外側)に転落防止用の柵が設置されましたので、ご報告いたします。



猪鼻城跡概念図 (『千葉県の歴史 資料編 中世 1』より)



写真 七天皇塚3号塚 フェンス設置状況